

JEITA

電子情報技術産業協会規格

Standard of Japan Electronics and Information Technology Industries Association

JEITA CP-5207D

衛星放送 IF 伝送システム測定方法

Methods of Measurement on DBS-IF Cable Distribution Systems

2004 年 2 月制定

2023 年 2 月改正

作 成

AV&IT 標準化委員会

AV & IT Standardization Committee

発 行

一般社団法人 電子情報技術産業協会

Japan Electronics and Information Technology Industries Association

目 次

ページ

まえがき

1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語の定義	1
4 帯域区分	1
5 一般的測定条件	2
5.1 標準測定状態	2
5.2 基準信号	2
5.3 計器及び測定器	2
6 システムの測定方法	2
6.1 テレビジョン共同受信システム	2
6.2 帯域内周波数特性	3
6.3 信号対雑音比 (CN 比)	4
6.4 相互変調妨害比 (IM ₂)	6
6.5 相互変調妨害比 (IM ₃)	7
6.6 CIN	8
6.7 加入者端子間分離度	10
6.8 反射特性	11
6.9 反射特性 (別法)	13
解説	14

まえがき

この規格は、一般社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）AV&IT 標準化委員会 受信システム・アンテナ標準化グループが **JEITA TSC-16**（電子情報技術産業協会規格類の作成基準）の様式によって作成したものである。

この規格は、著作権法によって保護されている著作物であるため、許可なくこの規格の一部又はすべてを複製・転載することを禁止する。

この規格は、この規格の一部が、工業所有権（特許権、実用新案権、意匠権など）に抵触する可能性に関係なく制定されている。一般社団法人 電子情報技術産業協会は、このような工業所有権に係る確認について、責任はもたない。

電子情報技術産業協会規格

衛星放送 IF 伝送システム測定方法

Methods of Measurement on DBS-IF Cable Distribution Systems

1 適用範囲

この規格は、BS-IF 伝送及び CS-IF 伝送を行うテレビジョン共同受信システムでの伝送性能の測定方法について規定する。なお、システム性能、仕様書などで要求条件が規定されている場合はその規定による。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。

JEITA CP-5110C デジタル衛星放送受信信号の CN 比測定方法

JEITA CP-5230B ホーム受信システム機器 (3.2GHz 対応)

JEITA CP-5231B ホーム受信システム機器 (3.2GHz 対応) の測定方法

3 用語の定義

この規格で用いる主な用語の定義は、**JEITA CP-5231B** (ホーム受信システム機器 (3.2GHz 対応) の測定方法) によるほか、次による。

a)

供試システム

試験又は評価しようとする受信システム。

b)

反射特性

システムの伝送路内において、主信号と多重反射により生じた遅延信号との DU 比、及びその遅延時間をいう。

c)

CIN (Composite Intermodulation Noise)

ガウスノイズと多波信号伝送時の相互変調歪成分との複合された雑音電力をいう。

4 帯域区分

この規格で規定する帯域区分は、**表 1** による。

表 1—帯域区分

記号	周波数 (MHz)
BS-IF	1032~1489
CS-IF	1000~2150 ^{a)}
BS-IF (L)	2150~2681
CS-IF (L)	2681~3224

注^{a)} BS-IF と CS-IF とに分けて表示する場合は、1000~1489MHz と 1489~2150MHz としてもよい。